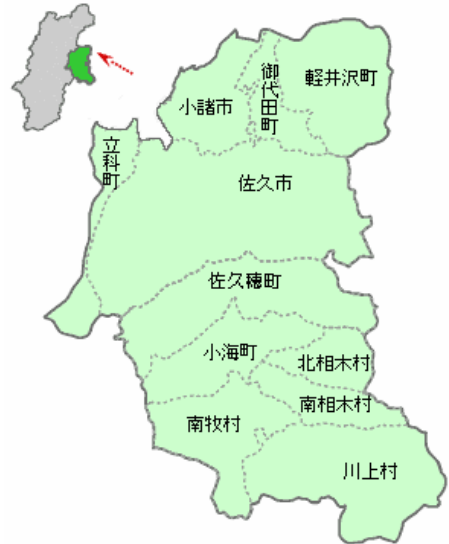


佐久を紹介します

佐久地域は、長野県の東部に位置しています。中央を南北に千曲川が流れ、浅間山、蓼科山、八ヶ岳などに囲まれた、我が国有数の高原リゾートエリアです。

佐久地方事務所の管内は、小諸市、佐久市、北佐久郡（軽井沢町、御代田町、立科町）、南佐久郡（小海町、佐久穂町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村）の2市5町4村です。



【自然】

《浅間山》



浅間山は、長野県と群馬県の境にある山で、標高は2,568m。日本有数の活火山です。

数十万年前から噴火を繰り返していますが、中でも1783年（天明3年）の大噴火が有名です。

日本百名山の一つで、多くの登山者が訪れますが、現在は、噴火警戒レベルが2（火口周辺規制）となっており、火口周辺への立ち入りが規制されています。

佐久地域には、他にも八ヶ岳、蓼科山などの山があり、豊かな自然環境に恵まれています。

《千曲川》

千曲川は、長野県と山梨県の境にある甲武信ヶ岳を源流とし、新潟県に入ると「信濃川」と名前を変え、日本海へ流れ込みます。全長367kmで、日本で一番長い川です。佐久地域は、千曲川の最上流に位置しています。

島崎藤村は、小諸町（現在の小諸市）に教師として赴任した際に「千曲川のスケッチ」を執筆しました。この作品は、千曲川一帯の自然や人々の暮らしを生き生きと描いており、藤村の代表作の一つです。

【気 象】

佐久地域は、冷涼な気候で晴天率も高く、さわやかな晴れの日が多いことが特徴です。

夏には、その冷涼な気候から、多くの避暑客が訪れます。

冬は、降雪量は少ないものの、寒さが厳しいことが特徴の一つです。この厳しい寒さのため、北相木村の三滝山大禅の滝は、滝が凍ることでも有名です。



【交 通】

《上信越自動車道長野線》

上信越自動車道長野線は、1995年（平成7年）に藤岡JCTから小諸IC（小諸市）までが開通しました。これにより、碓氷峠などカーブの多い峠道を通ることなく、東京から佐久地域へ来られるようになりました。

また、中部横断自動車道（小諸～静岡県清水市）については2011年（平成23年）3月に佐久小諸JCTから佐久南ICが開通し、現在、八千穂IC（仮）～佐久南IC間において工事が進められています。

《北陸新幹線》

北陸新幹線（長野新幹線）は、1997年（平成9年）10月に東京駅から長野駅までの営業が開始されました。今では、東京駅からわずか1時間あまりで軽井沢駅に到着します。

東京からは、佐久地域がますます身近なところとなっています。

《小海線》



小海線は、小諸市の小諸駅と山梨県北杜市の小淵沢駅を結ぶ全長 78.9 kmのJR線です。愛称を八ヶ岳高原線といい、高原地帯を走るローカル線です。

野辺山駅は標高 1,345mのJR線最高駅で、清里駅と野辺山駅間には標高 1,375mのJR鉄道最高地点があります。

2007年（平成19年）7月からは、世界初のハイブリッド列車（愛称「こうみ」）が営業運転を開始しています。

【産 業】

《農業》

佐久地域では農産物、畜産物の生産が盛んです。

特に千曲川上流の川上村や南牧村では、冷涼な気候を生かした高原野菜（レタス、白菜など）の栽培が盛んで、全国でも有数の高原野菜の生産地です。現在では、国内での販売に留まらず、レタスの海外輸出も行われています。



《商業》

北陸新幹線佐久平駅周辺には大型店や飲食店が進出し、新たな商店街を形成しており、休日には多くの家族連れが買い物に訪れます。

一方、従来からの商店街では、空き店舗を利用したチャレンジショップや子育て世代への支援、特産品の開発などにより、商店街の活性化に取り組んでいます。

《工業》

佐久地域は、上信越自動車道、北陸新幹線などが整備されたことにより、関東方面とのアクセスが容易なため、精密部品・電子部品、自動車部品、工作機械、半導体製造装置などの技術開発型の企業がたくさんあります。

また、佐久リサーチパークをはじめとした多くの産業団地が造成されており、地域の人たちの雇用の場となっています。

【観 光】

浅間山、蓼科山、八ヶ岳に囲まれた佐久地域は、避暑地として有名な軽井沢（軽井沢町）、高峰高原（小諸市）、八千穂高原（佐久穂町）、松原湖高原（小海町）、立原高原（南相木村）、蓼科高原（立科町）など自然豊かな高原リゾートがあります。ゴルフ場やスキー場も多く、年間を通して楽しめるエリアです。

北国街道や中山道など昔の面影を残す宿場町、小諸城址（小諸市）、龍岡城五稜郭（佐久市）の城址などの旧跡や多くの文学者ゆかりの地など、観光スポットに恵まれています。

最近では、健康志向を反映し、「歩く」イベントやツアーが開催され、多くの人たちが参加しています。

また、日帰り温泉施設も充実しており、400円から500円で利用できる温泉施設が多く、最近では、日帰り温泉の利用を目的とした観光客も増えています。

【歴史】

《中山道・北国街道》

江戸時代には、東海道に次いで主要な街道であった中山道が、この地域の交通の中心でした。中山道は、江戸・日本橋から北上し、碓氷峠を越えて信州に入ります。軽井沢の追分で北国街道と別れて木曾、美濃を経て京都に達する交通の大動脈でした。江戸時代の末期には、皇女和宮が降嫁する際に通った街道としても有名です。

佐久地域には、追分宿（軽井沢町）、小田井宿（御代田町）、芦田宿（立科町）などの宿場があり、多くの旅人が宿泊、休憩に利用していました。

また、追分宿から新潟県へ向けて、北国街道が延びており、江戸時代には、善光寺への参拝道路として、多くの人々でにぎわいました。

中山道、北国街道の街道沿いには、今でも当時の面影を残す建物が所々に残っています。

《碓氷峠》

碓氷峠は、軽井沢町と群馬県安中市松井田町の間にある峠です。

古くから関東と長野県を繋ぐ重要な道として使われてきましたが、交通の難所としても有名でした。

鉄道においても、碓氷峠を越えることは、早くから期待されていましたが、急勾配のため、鉄道を通すことは容易ではありませんでした。

信越本線の軽井沢駅と横川駅の間わずか 11.2 km間に、18の橋梁と26ものトンネルを造り、更に「アプト式」と呼ばれる車輪とレールを歯車でかみ合わせる方式を採用し、1893年（明治26年）にようやく開通しました。

開業当時、横川駅と軽井沢駅間は蒸気機関車で1時間15分もかかっていたのですが、1912年（明治45年）に電化され、わずか49分に短縮されました。

その後、1997年（平成9年）の長野新幹線の開通により、この区間の鉄道は廃止され、現在はバス輸送となっています。

【長野県天然記念物】

《川上犬》

川上犬は、川上村を原産とする小型の日本犬です。柴犬の一種ですが、ヤマイヌ（ニホンオオカミ）の血を引くとの言い伝えも残るほど、運動能力が高く野性味が強いといわれています。

大正時代に信州柴犬として国の天然記念物に指定されましたが、洋犬の流入による雑種化や戦時中の撲殺令などにより、純血犬が減少し、1965年（昭和40年）には国の天然記念物の指定を解除されてしまいました。

その後、熱心な村民の努力により絶滅の危機は回避され、1983年（昭和58年）に「川上犬」として長野県の天然記念物に指定されました。

2006年（平成18年）の戌年にあって、多くの犬種の中から川上犬が干支の顔として選ばれ、年末年始の1ヶ月間、東京都の上野動物園に展示されました。これにより、川上犬が広く全国に知られることとなりました。

《笠取峠の松並木》

中山道が開かれた頃、芦田宿（立科町）と長久保宿（小県郡長和町）を繋ぐ笠取峠に、小諸藩により赤松が植えられました。

言い伝えでは、1602年（慶長7年）頃、「公儀より赤松苗753本を小諸藩に下付され、近隣の村むらへ人足が割り当てられ小苗を植え付けた」とされ、幕末までは、手入れや補植等の管理が行われていたようです。

現在の松並木は、72本に減ってしまいましたが、残っているものは、いずれも樹齢が150～300年以上経っており、その景観は、当時の中山道を偲ばせます。



【食】

《佐久鯉》

佐久地域の食材としては、鯉が有名です。

鯉は、他の地域では通常2年で出荷されるのに対し、佐久鯉は、冷たい水で育てため、3年目で出荷されます。そのため、佐久鯉は泥臭さが無く、身が引き締まりおいしいといわれています。

鯉こく（鯉の味噌汁）や甘露煮が有名で、各家庭でもおふくろの味として食べられています。

《日本酒》

佐久地域は、長野県内有数の良質米の生産地です。

また、良質な米ときれいな水と寒冷な空気により、県内有数の日本酒の産地でもあります。佐久地域には、13の酒蔵があり、それぞれに個性のあるおいしい日本酒を造っています。

《安養寺ラーメン》

信州味噌発祥の地といわれる安養寺（佐久市）の「安養寺みそ」を使用して作られた「安養寺ら〜めん」が新しい名物となりました。現在は、佐久市内の16店のラーメン店でオリジナルの味が楽しめます。

管内図

